さいたま市立大原中学校 学校だより

新しき光

校訓「歴史を拓く」 学校教育目標「はつらつとした生徒、地域に輝く学校」

さいたま市立大原中学校
TEL 048-831-5397 FAX 048-835-13
WEB https://ohara-j.saitama-city.ed

第３号
令和６年５月31日発

あたり前がなつかしい

校長　越智　宏明

給食の内容は時代ごとに変化しています。この日の給食は長崎名物チャンポン麺。昔そのままのソフト麺を本格的な味付けの具に投入し、味わっていました！

先日テレビで、今「学校給食」を食べられる店が大流行しているという特集をやっていました。ある店は、教室そっくりにレイアウトした個室に生徒用机を並べ、ソフト麺や揚げパン、カレーライスなどを提供したところこれが大ヒット！瞬く間に大阪、東京、愛知に８店舗を構える人気外食チェーンに急成長したそうです。８店舗とも連日満員で、２０代の若者から５０代６０代の幅広い客層からたくさんの支持を得ているとのことでした。

ところで、生徒の皆さんはこのようなお店に行きたいですか？おそらく多くの人が「別に…」とあまり興味を示さないのではないでしょうか？私もそうです。なぜなら、生徒の皆さんや我々教職員にとって学校給食は、毎日食べられる「あたり前」のものだからです。珍しいものでも貴重なものでもなく、わざわざお金を払って遠くまで食べに行く必要がないのです。しかし、中学校を卒業して給食を食べなくなった大人たちにとっては、給食とは、正に学生時代のシンボルとして、時々無性に食べたくなるようなのです。生徒机で向かい合ってソフト麺をちぎりながら、小学校時代や中学校時代の思い出を語り合うのがとても楽しいと、客として来店していた中年男性たちがインタビューに答えていました。

このお店のコンセプトはずばり「なつかしさ」。大人となり、ある人は結婚して家庭をもち、またある人は社会的地位のある立場に就き、それなりの人生経験を積んだところで、ある日突然、子どもの頃食べた給食の味を思い出したときに、ふと帰れる場所。そんな場所を多くの人が求めているのだそうです。実際お店のホームページには大きく「あの頃のあなたへ……『おかえりなさい』」というキャッチコピーが踊っています。「給食」を食べることによって、「あの頃」の自分に戻りたいという大人が増えているということなのでしょう。言われてみれば、私も給食には色々な思い出があります。

- ○　小学校１年生初めての給食。嬉しくてトレイを持ったまま走ったら、そのまま机の角につまずき、給食がそこら中に飛び散りました。
- ○　同じく小学校１年生の時、食べるのが遅かった私は食べ終わるまでどこにも行くなと言われ、５時間目になっても廊下で食べ続ける羽目に。更にその５時間目が授業参観で、廊下で一人給食を食べていた私を見た母親が泣いていました。
- ○　中学校３年生の時、当時のだるまストーブの上の洗面器で牛乳を温めていたら、膨張した牛乳パックが破裂し、教室中に牛乳が飛び散り、当時の担任から大目玉を食らいました。

とまあ、ろくでもないものばかりですが、給食を思い出す時、それを一緒に食べていた友人や、雷を落としてきた担任の顔が鮮やかに浮かんでくるのはなぜでしょう？きっとあたり前の日常の中にこそ、忘れ難い思い出があるからなのではないでしょうか。

中学生の皆さんが今あたり前に生活する中で営まれている学校給食や友人との語らいや先生との交流が、やがて大人になった時、自然と思い起こされる大切な宝物に変化していくのだと思います。

生徒の皆さんはあたりまえの日常ありふれた日々が、いつか輝く思い出に変わるよう、今日という一日を大切に生きてほしいと思います。そして我々も皆さんの大切な思い出作りに寄り添える存在でありたいと決意を新たにする、今日この頃です。